

A、日本共産黨（純粹のプロレタリア派）

B、社會民主主義政黨（金融ブルジョアジーのファッショナ政策を支持せんとする一派、従つてそれは、コミンタンが斷定した通り、社會ファッシュと名づけるのに最もふさはしい一派である）

C、ファッシュ無産政黨（無産階級陣營内へのファッシュの出店）

(イ) ファッシュ派並に社會ファッシュ派は現在互に對立抗争してゐるが、その何れかを、他の一方より、よりいくらかでも進歩的であると考へるならば、それはとんでもない認識不足である。彼等は共に極右翼派であり、労働者農民に對する最悪の裏切者である。附記、我が總評の陣營からも小田、飯石、齊藤等の裏切者を出したが、即時除名處分に附してしまつたことは諸君の知つてゐる通りである。

二、政黨支持問題に關するわが總評議會の態度方針

(キ) 従來労働大衆黨の影響下に在つた歴史的多数の大衆は今ではグラ幹共の全く恥知らずの裏切的指導に對して完全にアインをつかし、黨に對する無關心の状態に陥つてゐる。従つて我々が大衆黨の組織を通じて大衆と手を結ばうとするやうなことは——極例外的な二、三の場合を除いては——最早ナンセンスである。

(ク) 假りに同黨を利用することに依つて今なほ、多少、大衆と手を握る機会をつかみ得るとしても、それは我々の基本的な戦線統一方針であるところの『工場委員會運動——工代運動を通じての下からの戦線統一』に對して何程の効果をも付け加へはしないのだ。

(コ) しかも、もし我々が、ファッシュ政黨並に社會ファッシュ政黨排撃の態度を明確にしないならば、其に依つて生ずる害毒は、その效果に百倍するだらうことが考へられる。もし我々が今後グラ幹政黨に對する排撃の態度を百パーセント明確にして進まないならば、彼等グラ幹共が今後事毎にまき散らすであらうところの極度の反動思想の影響は或る程度まで一般大衆の中へ及び、政治的意見の混濁が招來されるに相異ないのであるから。プロレタリアートに取つて、

A 各黨に對する態度

(イ) 右の如き状態の中に在つて、我が總評議會は政黨支持問題に關して如何なる態度方針を取るべきであるか？

(ロ) 我が總評議會は、日本共産黨支持を決議し聲明すべきであるか？ 我々は「~~日本共産黨支持を決議し聲明すべき~~」ことを確信してゐる。だが現在の状態の下に於て急速に大衆化することを必要としてゐる大左翼労働組合が共産黨支持を決議し聲明するが如き機械的行動に出ずるとは、たしかに戦術上の重大なる誤謬である。

(ハ) では社會ファッシュ政黨並にファッシュ政黨に對して如何なる態度をとるべきであるか？ 無論、斷乎、排撃、粉砕あるのみ。

(ニ) 従來我々は、全國労働大衆黨に對しては、支持をも排撃をも決議しないやうな態度を取つて來た。これは全國労働大衆黨の影響下に在る大衆と手を握るためには相當多数のメンバーを同黨に送り込むのが便利だと考へたからだ。そして、それは確に相當の効果を擧げた。だが状態は既に激變した。従つて我々の方針も亦當然變更する可きである。

最も恐る可きことは、イデオロギーの混濁である。我々は全力を擧げてそれを阻止しなければならぬのだ。

(チ) 雜誌労働の諸君は御親切にも、我々——總評議會をも含めての舊労働黨系の同志たち——が、今後政治的無關心に陥るであらうことを心配して呉れてゐる。だがグラ幹共の政黨と徹底的に縁を切り、それを排撃することは、それ自體が明かに政治行動であつて、さうした活動によつて、わが總評議會が政治的無關心に陥るだらうと云ふ様なことは夢にも考へられないことだ。我々は今後益々戦争反對や悪法反對やファッシュ粉砕の闘争を敢行する決意を持つてゐるが、グラ幹政黨排撃に依つてこの決意がにぶる——もしくはその實行がまたげられる——と云つたやうなことは全くあり得ないことだ。

三、労働政治委員會の結成へ

A 如何にしてグラ幹と戦ふか

(イ) 當面のトローたる右翼化の傾向に對して、我々は如